

## 2023（令和5）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和5年7月27日（金）午後6時00分～
- 会 場 阿寒町公民館
- 出席者 17人

### 〔市長より説明（別途資料参照）〕

- (1) 釧路市の防災の取り組みについて
- (2) 市立釧路総合病院の新棟建設事業等の進捗について
- (3) 都心部まちづくりについて
- (4) 町内会への取り組みについて

### ●質疑応答

#### 【参加者A】

阿寒町公民館、行政センター、スポーツセンター、小中学校等が緊急避難場所として指定されています。多分どこにも空調はついてないでしょう。時期にもよると思いますが、防災の観点からすると、災害が発生する時期は僕らが選べるわけではないため、酷暑の時期に大勢を避難させる場合、せっかく避難してきてもあまりにも暑くて具合悪くなってしまいます。昔と違って暑さ対策をどこか念頭に置いて、そういうときだけでも少しでも物資を備蓄する、あるいはどこかからかき集めてくる必要があるのかなと思います。停電になったときに扇風機やエアコンがあっても意味がありません。もし今停電が起きたら必死でうちわであおぐしかありません。健康な人はいいいですが、病人も含め高齢者の方への対策を何か考えなくてはなりません。もし市の方で何かあれば、お聞かせください。

#### 【市長】

まりむ館にも空調設備はありません。昔は空調等を考えてきませんでした。これからは考えていかなければなりません。そこで避難所が重要になってくると思います。今我々は津波対策について、L2（最大クラス津波）という1千～6千年の間に来る想定より高い津波は、インフラで防ぐのではなく、逃げて命を救うという観点で避難所をしっかりと確保するという事です。まず避難場所の確保を進めていこうという事で、平成20年の時には39か所だったものが、今は多くのご協力をいただきながら153か所くらい一時避難場所を確保してきました。

次の問題になるのは避難所の運営になってきます。一時避難場所と避難所があり、一時避難場所は逃げるだけですが、避難所については、津波に近いエリアは避難所になりませんので、橋南地区などの高い地区や阿寒の方になってまいります。そしてそこで問題になるのが、避難所の運営の中で暑さに対応できるのかといったときに、避難所の中でしっかりとした環境を確保するという観点が必要になってきます。色々な物を用意して、使える形にすることが一番の理想形だと思っております。今頂いたご提言は重要なことだと思いますので、避難所の

運営と組み合わせながら進めていき、実現できるよう検討します。

【参加者B】

病院の経営についてお聞きします。看護師、先生方は一生懸命やっておりますが、ここ2～3年患者さんが非常に少ない感じがしております。その点について、何かありましたら、お願いします。

【阿寒診療所事務長】

確かに外来患者数につきましては一日平均すると昨年度で30人くらい、今年度で28人くらいという事で、一日平均すると2人ずつぐらい減ってきている状況です。この状況につきましては、診療所としても地域の皆さんが利用して頂けるような形で取り組んでいきたいと考えておりますので、ドクターを含めて診察の中でこういった対応ができるのかについて、日ごろから協議を重ねた上で、取り組みを進めているところです。

入院の状況につきましては、現在は1日平均15人くらいですが、実は阿寒診療所の状況としまして、看護職員の欠員が生じていることもあり、入院患者をセーブしている状況です。今後は看護職員の確保を踏まえた上で、積極的に入院患者に入っていただけるような取り組みを進めていきたいと考えており、様々な方法で募集の周知をしていますが、なかなか職員を確保できていないという現状があります。その部分につきましてはいろいろ所内で研究を重ねていきながら進めています。

【参加者B】

私の意見としまして、今まで整形外科専門の先生がいたときは患者さんも多く来ていたように思いますが、今の先生は整形外科専門の先生ではないため、患者さんも減ってきているのではないかと推測しています。今後も市長には整形外科専門の先生が来てもらえるように努力していただきたいと思います。

【市長】

地域医療の確保は重要だという観点で進めている所であります。あわせまして、病院経営という観点で見たときに、医療関係者が多くいたほうが良いという点もありますが、あわせて必要な医療が地域にあるかどうかということです。医療も専門が細かく分かれてきている中で、必要な医療体制をご紹介していただいて、地域の中で対応している形になっております。医師を確保することは非常に重要なことでありまして、札幌医科大学や北海道大学医学部、旭川医科大学と連携を取りながら、進めていきたいと思っております。まずは地域に必要な医療を確保することに重点を置きながら、進めていきたいと思っております。